



# 会津放射能情報センター NEWS

住所：〒965-0877 福島県会津若松市西栄町 8-36 Tel & Fax：0242-23-9401  
開館日：水木金曜 10 時～16 時 第 1, 3 土曜 10 時～12 時（国民の休日は除く）  
E-mail：info@aizu-center.org 公式 blog：http://ameblo.jp/mamorukai-aizu/  
Web：https://aizu-center.org



2023 年 9 月 30 日発行

第 43 号

会津放射能情報センター

検索

## この夏 出会ったいのちに向き合う人びと 会津放射能情報センター代表 片岡輝美

この夏、京都府宇治市にある「ウトロ平和祈念館」を家族と訪れました。1900 年代初頭から日本は大韓帝国を植民地化し、「韓国併合」条約（1910 年）により朝鮮は国家を消失させられました。朝鮮に渡る日本人が「開港」を強行することで、朝鮮の人々は土地や財産を失い 62 万人が祖国から押し出されるように生活の糧を求めて日本へ。折しも京都では 1940 年に国策「京都飛行場」の建設が始まり、大規模工事の土木作業員として朝鮮人が集められ、その時作られた集落がウトロ地区となりました。日本の敗戦で結局飛行場の建設は頓挫。ウトロに残された人々は大雨の度に浸水被害に見舞われ、1988 年まで上下水道がない劣悪な環境での生活を強いられてきました。戦後 40 年を経てやっと水道整備などに目が向けられたのですが、この時期に強制立ち退きを迫られる土地問題も始まり、その闘いは更に 30 年間続くこととなります。

この長きに亘る闘いで住民を支え続けたのは「ウトロの現状は深刻な人権問題である」と生活環境改善を求め、「地上げ反対！ウトロを守る会」を結成した宇治市の市民でした。やがて支援の輪は拡がり、国連人権委員会や韓国の社会や政府を動かしました。その後、国土交通省は京都府と宇治市に呼びかけ、住環境整備事業推進の取り組みを始めました。そして 2018 年 1 月、住民らは新たに建てられたウトロの市営住宅に入居。安住の地を手に入れました。

しかし 2021 年 8 月、22 歳の男性が差別的な動機で放火し、ウトロ地区の倉庫や民家など 7 棟を全半焼する事件が起きました。人的被害はなかったものの 2022 年 4 月に開館する「ウトロ平和祈念館」に展示予定だった住民の思いを綴った立て看板や飯場生活を伝える貴重な史料 40 点が消失。住居環境が整う一方で、ウトロは現代の日本社会が孕むヘイトクライムに向き合う現場でもあると言えます。

私たちの到着早々、斎藤正樹副館長がご案内くださいました。助け合いながら、懸命に子どもを育て生きてきたウトロー世の写真の前に立っていた時、私は斎藤副館長の言葉に驚きました。「日本は今も居住権が認められておらず、全国各地で深刻な強制立ち退きが行われている。ウトロは国内裁判では負け

たが、国際人権法を活用し国際的な支援で代替住宅を具体化した唯一のケースなんです」。

福島はウトロとも繋がっているんだ…。原発核事故によって避難を強いられた人々の救済と権利回復のため「国際人権法」の理解と周知が大きな焦点になっているのです。思わず福島から来たことを伝え、ウトロの闘いは核事故被害者の今と重なると感想を述べたところ、一緒に見学していた韓国女性が私の福島現状報告を同時通訳したことがあると名乗りで、また斎藤副館長のお父さまが会津若松出身であると知り私たちは驚きました。

さらに福島との繋がりは続きました。1 階受付の女性が自主避難者であると紹介されたのです。福島第一原発核事故後、福島市から実家がある宇治市へ幼子連れて自主避難生活を始めました。O さんの夫は福島県川俣町山木屋のご出身で、義理のご両親は今もそこに住んでおられます。事故直後、ご両親を助けるために福島市から山木屋に向かった時の恐怖は今も思い出すと震えてくること、1 年後宇治市で生活を始めた夫が就職先で大変ご苦労されたこと、そして「原発事故の被害当事者になって、この社会の問題が全て繋がっていることが分かりました。在日韓国人三世であり原発事故被害者である自分ができることをやっと思いいます」とお話ししてくださいました。上のお子さんと宇治で生まれた下のお子さんは「ウトロ平和祈念館の最年少受付ボランティアなんです…」と言った彼女の笑顔はほんとうに素敵でした。

放射能汚染水の海洋投棄が始まりました。私は思いのほか心身に疲労を覚え、3・11 直後の不安に近い感覚を抱いています。でもあの時と全く異なるのは、この 12 年間で出会ったいのちに向き合う人々の存在です。私もその一人として声を上げていきたいと願っています。

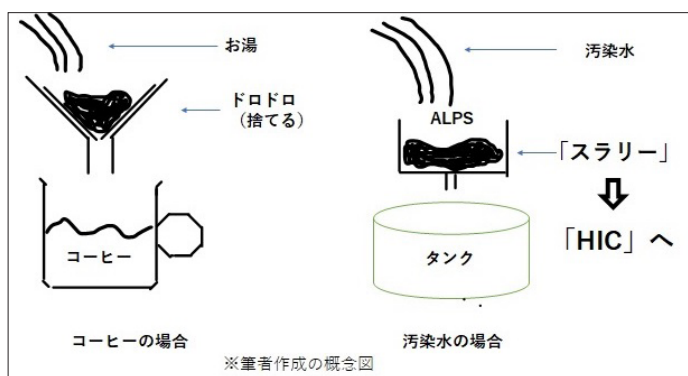


今年 8 月、政府と東京電力は福島第一原発にたまる汚染水の海洋放出を強行しました。漁業者との約束を守らず、代替案を検討せず、デブリの取り出しが進んでいないのに放出だけ急ぐ…。まさしく「大義なき海洋放出」だと思います。岸田文雄首相は「処分が完了するまで政府として責任を持つ」と言いますが、海洋放出の計画はのっけから無責任の固まりです。安全面にせよコスト面にせよ、無責任の例を言い出したら切りがありませんが、本稿では「ALPS 処理の際に出るゴミの問題」を紹介したいと思います。

## ■ ALPS 処理で出る「スラリー」「HIC」とは？

汚染水処理の流れをコーヒーのドリップにたとえます。多核種除去設備(ALPS)というのは大きなペーパーフィルターだと考えてください。放射性物質がたくさん含まれている汚染水を ALPS というフィルターで漉し、出てきた液体が政府の言う「ALPS 処理水」です。(※処理後もトリチウムを含めて様々な放射性物質が残っており、けっして” 清浄 ” ではありません。だから筆者は ALPS 処理後の水も「汚染水」と呼んでいます。)

この ALPS 処理後の汚染水が数十年にわたって海に流されようとしているわけですが、本稿で紹介したいのはフィルターに残るかす、ALPS (※前処理設備を含む) が漉しとった残存物の問題です。コーヒーをいれる時、フィルターには水と粉がまじったドロドロが残りますね。ALPS の場合も同じで、放射性物質によって強烈に汚染された汚泥やごみが残ります。これを「スラリー」などと言います。スラリーには専用のゴミ箱が必要で、「HIC」という名前がついています。ALPS 処理が続けば高濃度の汚泥ごみ(スラリー)が発生し、それを入れるゴミ箱(HIC)も増える。そういう状況です。

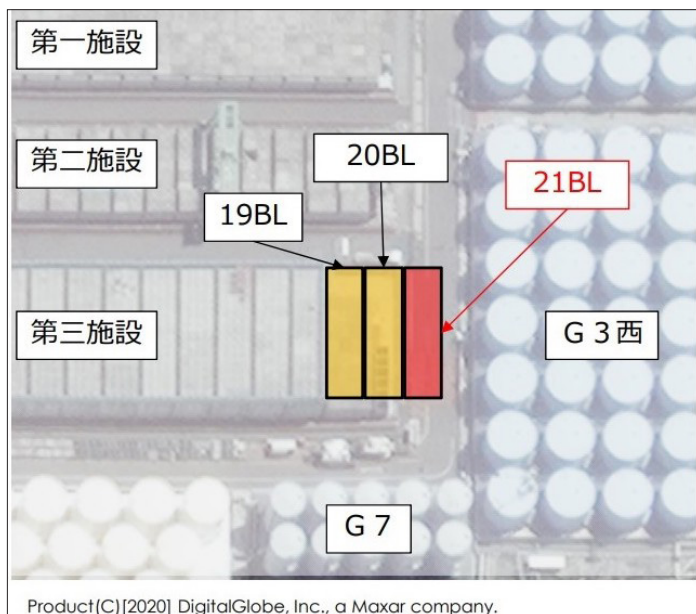


## ■ ゴミ箱の置き場所が足りない？

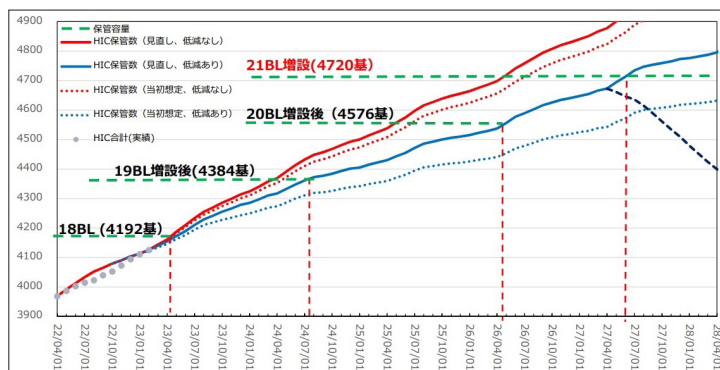
このゴミ箱の置き場所が「隠れた大問題」になっています。東電によると、福島第一原発には今年 8 月 24 日現在で 4222 基の HIC があります。汚染水の発生を止められない中、ALPS 処理が続き、スラリーも増え続け、結果としてゴミ箱である HIC もここまで増えてしまいました(だいたい 3 日間 ALPS を動かすと HIC 1 基分のスラリーがたまるそうです)。問題は「これ以上 HIC の置き場所はあるのか」です。右の画像を見てください。東電が原子力規制委員会に提出した資料から転載しました。東電は 19BL (ブロック)、20BL とブロック単位で HIC の増設をくり

かえてきました。現在進めているのが 21BL への増設で、これが完了すれば「4768 基まで HIC の数を増やせる」としています。

ところが 21 ブロックのすぐ隣には汚染水(政府の定義では「ALPS 処理水」)を保管するタンク群があります。つまり、これ以上増設のスペースがないのではないか、という疑念が生じます。今後 HIC の数が足りなくなった場合に原発構内のどこに増設するのか。東電は現時点で明らかにしていません。



下の図も東電が規制委に提出した資料からの転載です。HIC 保管数の見通しが赤字と青字で示されています。実際にはこの 2 本の線の間ぐらいで増えていく、というのが東電の見立てです。何も対策を取らなかった場合、早ければ 2026 年の夏、遅くとも 2027 年の秋ごろには HIC が足りなくなります。



※ 21BL の増設で確保できる HIC の数が「4720 基」とあるが、東電はのちに上方修正し、「4768 基」としている。

こうした状況は、東電の事故対応をチェックする原子力規制庁の担当者も憂慮しています。以下は今年3月に行われた原子力規制委員会の会合での規制庁・大辻絢子氏の発言です。

「HICの保管容量に関しては、何度も何度もこうやって一時的な保管施設を増設せざるを得ないという御説明がなされている中で、本当にどこまで見通せているのかなというのに、正直ちょっと疑問を持たざるを得ない。(中略)今回21ブロックまで増設ということ新たに示してきて、これ多分、道路まで出ちゃうのかなというふうに図からは理解しているんですが、今回のその予測を見ても、それでも足りないんじゃないか」。

### ■脱水処理はできるのか？

東電が活路を求めているのは、HICの中に入っているスラリーの「脱水処理」です。スラリーは液体と固体が混ざってドロドロの状態。これを脱水処理して水分を減らす。脱水後のスラリーはHICからもっとコンパクトな容器に移し替えることが可能。結果、今あるHICは年間およそ600基ずつ減らしていける。脱水処理のための設備は2026年度末の稼働を予定。これでゴミ箱の置き場所問題は解決一。東電はこういう計画を描いています(前頁の図の青い点線で示したように2027年4月以降HICの数が大幅に減る、と言います)。

しかし、東電の思い通りに進む保証は全くありません。スラリー脱水設備を作る計画はずっと前からあり、当初は2022年度に完成予定でした。ところが原子力規制委員会からいくつかの課題点が指摘され、東電が設計をやり直しています。一番の問題は、HICの底にたまったスラリーがうまく取り出せないんじゃないか、という点です。

昨年9月の原子力規制委の会合で、伴信彦委員がこの点を指摘しました。

「本当にこれができるんですか。底のほうにたまっちゃって、上澄みと分離しているんじゃないですかというところに対して、いや、かき混ぜながらやればできるんじゃないかと思っているというのが東電の答えなんですけれども、ただ、現実にもろろ濃度の高いやつを移し替えるだけでもダストの警報

が鳴ったりしていますので、それをかき混ぜたらどうということになるのかという、それがものすごく懸念されます。だから、そういうことも含めて本当にフィージビリティ(実現可能性)があるのかどうか。そこまで証明していただく必要があります」。

### ■見切り発車の海洋放出


スラリーの脱水設備が完成せず、HICの保管場所が足りなくなれば、政府・東電の海洋放出計画は頓挫します。新たにHICの敷地を確保するのでしょうか。これまでずっと「タンクの敷地がない」と言っていたことと矛盾しないでしょうか。

「ゴミ箱問題」だけとってみても、国と東電の海洋放出計画がいかに「見切り発車」的で無責任なものかが分かります。(ちなみにスラリーから抜き取った汚染水はもう一度ALPS処理に回します。際限なく続くALPS処理。とほほ…)

やはり必要なのは「海洋放出以外の代替案」の検討です。海洋放出が当初の計画通りに進まないことが判明してからでは遅い。今から代替案を真剣に検討し、いいアイデアがあったらいつでも方針転換すべきです。

大学教授や原発の設計に関わってきたエンジニアらが加わる「原子力市民委員会」というグループは、「大型タンクによる長期保管」や「モルタル固化」などの代替案を出しています。政府・東電はこれらの案について真剣に検討すべきです。

■牧内昇平 / 元朝日新聞記者のライター。2020年から家族で福島市に移住し、原発事故後の様々な問題について取材活動を続けている。



manufacturing consent  
原発事故汚染水をめぐる  
「合意の捏造」  
ウネリウネラ 牧内昇平 著

**manufacturing consent**  
**原発事故汚染水をめぐる**  
**「合意の捏造」**

ウネリウネラ 牧内昇平 著 / 700円

お求めは  
**ウネリウネラ BOOKS**  
で検索を!

## 情報センター第13回総会を開きます 10月21日(土)1時より

### 総会后 オンライン併用 学習会も開催!

日時: 10月21日(土)2時45分~4時

会場: 若松栄町教会礼拝堂

報告: 「これまでの取組と今後」山崎知行医師

「汚染水の海洋投棄をめぐって」片岡輝美代表

センターまでメールでお申し込みください。

※切 10月19日(木) どなたでもどうぞ。

## カレンダー原画展 & 絵本作家のトーク

原画展

11月1日(水)~11月4日(土)

10:30~18:00(最終日17:00まで)

ふしはらのじこさんトーク

11月3日(金・休)14:00~15:15

会場: 若松栄町教会礼拝堂

詳細は「応援カレンダープロジェクト」を検索してください。



## ■ 2023年4月～9月の活動報告 ■

### ■ 4月

- 2日 報告：ドイツ・イチモクの会 13名
- 3日 報告：マイノリティー宣教センター
- 4日 これ以上海を汚すな！市民会議オンライン記者会見
- 7日 報告：さようなら原発第15回オンライン学習会
- 14日 会津若松・汚染水の海洋放出に反対するグローバルアクション 12名
- 15日 センター役員会

### ■ 5月

- 7日 これ海学習会 120名  
「科学者が語る放射能汚染水を海に流してはいけない理由」
- 9日 報告：韓国・正義党  
放射能汚染水無断投棄阻止のための韓日連帯案模索検討会
- 16日 海に流すな！東京行動 1,000名
- 27日 報告：さようなら原発米沢第70回つどい 40名

### ■ 6月

- 3日 センター役員会
- 5日 報告：福島県教会婦人研修会 50名
- 5日 報告：EMS Sharing of Life Concerns 20名
- 10日 ミニ学習会：RISE 高校生 8名
- 17日 メッセージ：最高裁判決を正す集い  
原発被害者訴訟原告団全国連絡会
- 20日 汚染水を海に流すな！6.20福島行動 150名
- 28日 報告：みてみよう会 25名

### ■ 7月

- 1日 食・環境改善機構学習会 20名 酒井恭子
- 6日 「ALPS 処理水」を巡る政府・東京電力  
会津地方住民説明・意見交換会 120名
- 10日 メッセージ：「汚染水を海に流すな！緊急集会」  
首相官邸 韓国「共に民主党」意見交換
- 15日 原発汚染水海洋放出を考える学習会 100名  
講師：満田夏花さん 会津若松市・喜多方市
- 17日 海といのりの集い in 小名浜 300名
- 21日 交渉：汚染水の海洋投棄に関する福島県交渉 ひだんれん
- 22日 山崎知行医師 個別相談3名、おしゃべり会6名
- 29日 センター役員会
- 30日～31日 報告：修学院フォーラム 40名 京都
- 31日 子ども脱被ばく裁判第7回控訴審 仙台高裁

### ■ 8月

- 2日 報告：九州教区オンライン反核・平和セミナー 60名
- 7日 報告：PARC オンラインセミナー 9名
- 9日～11日 平和まつり参加 會津稽古堂
- 17日 報告：全国キリスト教学校人権教育セミナー 60名
- 18日 汚染水を海に流すな！  
首相官邸要請行動 300名 参議院院内集会 200名
- 24日 汚染水の海洋投棄抗議行動  
東電本社前 400名 福島第一原発入口 15名
- 26日 報告：子ども全国ネットオンライン集会
- 30日 汚染水の海洋放出に関する国・東電と住民の  
意見交換会 150名 郡山

### ■ 9月

- 7日 報告：Global Ministries ツアー 10名
- 24日 報告：ルーテル教会総武地区合同集会
- 27日 インタビュー：山梨英和高校 4名  
※報告などは片岡輝美が担当しました。

## ■ 2023年4月～9月の感謝報告 ■

年会費および協賛金をお届けくださった方を記載しています。感謝申し上げます。特記なき教会や教区は、「日本基督教団」です。記載漏れなどがありましたら、ご連絡ください。4月1日～9月12日の受付分となります。（敬称略・到着順）

### ■ 個人

立岩秀彦、藤原秀徳、渡辺洋子、小野洋子、タナカマサヒコ、長谷三知子、三浦忠雄、行本宏子、岡山牧人、岡山牧呼、西尾登美、北垣成子、本田香織、山口政隆、三河和音、守下宣子、我孫子発代、小幡 正、中林正剛、木村啓子、内藤新吾、守川初穂、古郝荘八、佐原光晃、成松三千子、石川嗣郎

### ■ 団体

紫野教会、関東学院六浦中学校・高等学校、美唄キリスト教学園めぐみ幼稚園、翠ヶ丘教会、名古屋中央教会、東京第四友の会目黒方面、防府教会、東広島教会、佐敷教会教会学校、京葉中部教会、石橋教会、旭川星光教会、水戸教会、松本教会、北光幼稚園、新生釜石教会、東北バプテスト連合、松山学院高等学校、京都西田町教会、フィーリー記念室委員会、天満教会、札幌北光協会、吾妻教会、荒尾めぐみ幼稚園、会津地区、高の原教会、宿河原教会、大阪教区核問題特別委員会、千里聖愛教会、大分教会、美唄教会昼食会計、神戸北教会子どもの教会、東洋英和福島の子ども支援プロジェクト「虹の橋募金」、同志社高校宗教部、市川三本松教会教会学校、捜真小学校、花巻教会婦人会、日本キリスト教婦人矯風会四国部会、広島流川教会、大宮まぶね保育園、室蘭めばえ幼稚園、藤沢大庭教会、長岡京教会、食・環境改善機構、イチモクの会、六角橋教会、はっぴーあいらんどネットワーク、兵庫教区長田センター、中野桃園教会

### ■ 支援品

高戸佐和子と仲間たち、千歳栄光教会、榮まり子、中村純子

### ■ 署名のご協力に感謝いたします

各団体から署名感謝の言葉が届いています。引き続きのご協力をお願いいたします。

### ■ ホームページをご覧ください ■

センターや関連団体からの情報、MLで代表が発信する「原発核事故関連情報」、ホットスポットファインダーで測定した「放射能測定地図」等を掲載しています。センター NEWS のバックナンバーもご覧いただけます。

### ■ ML（メーリングリスト）に登録を ■

「原発核事故関連情報」やセンター主催の学習会や催し物の案内を一斉配信しています。登録を希望される方は、件名に「ML登録希望」、本文に氏名を記入してinfo@aizu-center.org宛にメール送信してください。

### ■ センター会員募集と年会費納入のお願い ■

10月より第13期に入ります。年会費や協賛金のお振り込みはこちらをお願いいたします。

振込先：ゆうちょ銀行 記号：02270-2

口座名：会津放射能情報センター 番号：116030